

## 平成22年度第4回英語教育FDICT活用研究委員会 議事概要

I. 日時:平成23年2月15日(火) 午前11時～午後1時20分まで

II. 場所:私立大学情報教育協議会 事務局 会議室

III. 出席者:山本涼一委員長、田中副委員長、北出委員、小林委員、山本英二委員、西納委員、五十嵐委員、(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 資料

- ① 「知的情意の総合力」育め
- ② 大学授業も対話で自熟
- ③ 今、求められる力を高めるための学習指導

### V. 議事概要:

1. 学士力を実現するための授業モデルとして、5年先を見据えて検討を行うこととし、次の3点に留意して検討を行うことにした。

- ① 教員が一方通行で教えるのではなく、生徒も共同して学べるようにすること。
- ② 教師の教えに対して学生側も意見を述べる対話型授業が学生に意欲を与えることができる。
- ③ 平成24年度の中学の学習指導要領では、探求的な学習、協同的な学習、体験活動の重視、言語活動の充実などの基本的な考え方が示されており、特に探求的な学習においては、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ表現など新しい技法を学んでくる。こういう新しい学生に対応したモデルを作成する。

2. 今回の委員会では、委員長作成の授業モデル案をもとに検討することにした。

<専門教育と英語教育：ICTを活用したESP教育の授業モデル

(1)到達度として学生が身につける能力

- ① 専門用語を理解し活用できる(アカデミックボキャブラリー・リスト十分分野固有の専門語彙)。
- ② 分野に特徴的な表現方法を理解し活用できる(文法と慣用表現、文章構成法と論理展開法)
- ③ 専門知識を理解し活用できる(分野を理解するための教養(予習)・分野特有の専門知識(専門教員と協働で意思疎通を図る))

④ 英語で自分の考えを作成し発表できる

(2)授業デザイン

(2)1. 授業のねらい

専門分野に関わる多様な知識や情報を英語で理解し、その分野に関する自分の考えを英語で伝え、国際社会での活動に寄与できる能力をめざす。

(2)2. 授業計画

専門教員と英語教員の協働作業を15回繰り返す(正課授業:専門教育/課外活動:英語教育)

- ① 英語で授業のできる専門教員と英語教員が常時打合せながら、授業を進める。
- ② 専門教員は英語で対面授業。英語教員は対面授業でチーム・ティーチングを行う。またはネットを利用して共同で授業を運営する。
- ③ 学生は英語の対面授業を受講し、授業内または授業時間以外で課題に取り組み、T.A.のようなファシリテーターによりネット上で、問題解決の支援を行う。

④ 評価内容

英語が理解できているか、専門分野の内容が理解できているか、英語で表現できるか、専門分野の課題を発表できるか

⑤ 評価方法

対面、ペーパーベース、オンライン

### VI. 次回の開催

本日の検討を踏まえて、次回2月25日に再度継続した検討を実施する。